



平成23年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月7日

上場会社名 株式会社 ビューティ花壇
コード番号 3041 URL <http://www.beauty-kadan.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三島美佐夫

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部長 (氏名) 須浪薫

TEL 03-5819-5670

四半期報告書提出予定日 平成23年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年6月期第2四半期の連結業績(平成22年7月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年6月期第2四半期	2,047	4.8	77	34.0	75	19.6	69	364.4
22年6月期第2四半期	1,953	5.6	57	—	62	—	14	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年6月期第2四半期	3,208.26	3,189.92
22年6月期第2四半期	605.77	592.16

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年6月期第2四半期	1,533	496	29.1	20,906.32
22年6月期	1,504	487	29.6	20,122.42

(参考) 自己資本 23年6月期第2四半期 446百万円 22年6月期 444百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年6月期	—	0.00	—	1,300.00	1,300.00
23年6月期	—	0.00	—	1,628.00	1,628.00
23年6月期 (予想)	—	—	—	1,628.00	1,628.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年6月期の連結業績予想(平成22年7月1日～平成23年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,300	6.9	240	18.1	240	14.7	120	25.8	5,427.90

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無
新規 ― 社（社名 _____）、除外 ― 社（社名 _____）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年6月期2Q 25,380株 22年6月期 25,108株

② 期末自己株式数 23年6月期2Q 4,032株 22年6月期 3,000株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年6月期2Q 21,685株 22年6月期2Q 24,733株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は本資料の発表日時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は経済状況等様々な不確定要因によりこれらの予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する項目については、添付資料の3ページの「1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、アジア新興国向けを中心とする輸出の増加等により、企業収益に一部回復の兆しが見られるものの、消費者の節約志向を背景としたデフレ進行の長期化、厳しい雇用情勢及び急激な円高による景気の悪化の懸念等、依然として先行き不透明な状況にあります。

当社グループの事業を取り巻く環境としましては、ブライダル需要は横ばい、件数が増えているフェーネラル需要も単価が下落傾向であるため、花の需要はトータルで横ばいに留まっているものと思われま

す。当社グループは、このような状況の中、中期経営計画の目標達成に向けてグループ一丸となって取り組んでおります。当社グループの基本方針として、新規顧客の積極的な開拓と既存顧客内での当社への発注シェアアップによる売上アップ、徹底的な経費削減を引き続き推進してまいりました。

このような状況のもと、当社グループの売上高は、生花卸売事業、生花祭壇事業ともに堅調に推移し、2,047,127千円（前年同期比4.8%増）となりました。また、中期経営計画の目標達成のための先行投資として生花祭壇事業の費用が一時的に増加したこと等により売上総利益については、444,144千円（前年同期比1.9%減）となりました。販売費及び一般管理費については、経費削減を推進し366,811千円（前年同期比7.2%減）となりました。その結果、営業利益は77,332千円（前年同期比34.0%増）となりました。また、経常利益は75,182千円（前年同期比19.6%増）、四半期純利益は69,573千円（前年同期比364.4%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

（生花祭壇事業）

生花祭壇事業の売上高は、1,528,410千円（前年同期比2.5%増）となりました。当事業が主として属する葬祭業界におきましては、消費者の支出は景気動向の影響は直接的には受けにくいといわれておりますが、経済産業省「特定サービス産業動態統計速報」（サンプル調査）によると、葬儀業の平成22年7月から平成22年11月までの売上高は202,755百万円（前年同期比3.4%増）、件数は139,215件（前年同期比6.7%増）となっております。このような状況のもと、前述の全社基本方針の徹底により、当社の当第2四半期連結累計期間における国内の生花祭壇の受注件数は、前年より189件増えて8,547件となりました。営業利益については196,471千円（前年同期比13.6%減）となりました。

（生花卸売事業）

生花卸売事業の売上高は、402,793千円（前年同期比7.1%増）となりました。当事業の主要顧客が属する生花小売業界におきましては、7月以降の猛暑による全国的な異常気象の影響から市場での取り扱い数量は例年より少なく、期間を通して高値で推移いたしました。このような状況のもと、当社は、直接仕入れを行っている取引先との交渉による仕入本数の確保、厳しい価格交渉を行うとともに、花卉市場への積極的な卸売りを推進いたしました。当社の当第2四半期連結累計期間の切り花取扱数量は前年同期比で8.9%減、金額では前年同期比9.4%増となっております。また、前述の全社基本方針の徹底による一般生花店への販売により、営業利益は105,020千円（前年同期比47.8%増）となりました。

（その他）

その他事業は、主に連結子会社の株式会社クラウンガーデネックスにおけるブライダル事業であります。前連結会計年度に開始した東京での事業が順調に推移し、売上高は115,923千円（前年同期比35.3%増）となりました。また、引き続き、生花仕様の見直し、生花仕入れルートの多様化による仕入原価の低減を推進したことで収益の改善がみられ、営業利益は2,957千円（前年同期は4,478千円の損失）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①財政状態

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ29,339千円増加し、1,533,641千円となりました。流動資産は、前連結会計年度末に比べ51,208千円増加し、994,001千円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金の増加によるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ21,868千円減少し、539,640千円となりました。これは主に、保険積立金の増加及び差入保証金の減少によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ20,386千円増加し、1,037,201千円となりました。流動負債は、前連結会計年度末に比べ48,189千円増加し、756,557千円となりました。これは主に、未払法人税等の減少及び未払費用の増加によるものであります。固定負債は、前連結会計年度末に比べ27,803千円減少し、280,643千円となりました。これは主に、社債の減少によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ8,953千円増加し、496,440千円となりました。これは主に、利益剰余金の増加及び自己株式の取得による減少によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末と比べ8,799千円減少し、450,148千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、営業活動の結果獲得した資金は74,082千円（前年同期は37,451千円の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益105,586千円の計上と非資金費用である減価償却費24,402千円の計上の一方で、売上債権の増加60,434千円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、投資活動の結果使用した資金は16,710千円（前年同期は20,791千円の使用）となりました。これは主に、保険積立金の積立による支出17,459千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、財務活動の結果使用した資金は60,196千円（前年同期は57,575千円の使用）となりました。これは主に、自己株式の取得による支出38,164千円と配当金の支払額28,740千円によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、現時点で当社を取り巻く今後の経済情勢及び市場動向が不透明な一方、子会社の業績回復やグループ全体で取り組んでいる徹底的な経費削減により、平成22年8月10日に公表いたしました通期の業績予想を据え置くことといたしました。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

①資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、当第2四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益が1,422千円減少し、税金等調整前四半期純利益が3,769千円減少しております。また、当会計基準等の適用開始により、投資その他の資産の「差入保証金」が3,769千円減少しております。

②表示方法の変更

四半期連結貸借対照表

前第2四半期連結会計期間において、区分掲記しておりました「差入保証金」（当第2四半期連結会計期間の残高は123,225千円）は、資産の総額の100分の10以下となったため、投資その他の資産の「その他」に含めて表示することにしました。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	450,148	458,947
受取手形及び売掛金	444,528	387,147
商品	3,677	6,318
仕掛品	—	463
原材料及び貯蔵品	24,187	14,314
その他	75,050	78,762
貸倒引当金	△3,591	△3,160
流動資産合計	994,001	942,793
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	112,470	121,908
減価償却累計額	△52,365	△54,627
建物及び構築物（純額）	60,105	67,280
工具、器具及び備品	171,199	171,963
減価償却累計額	△109,111	△100,145
工具、器具及び備品（純額）	62,088	71,818
土地	122,842	122,842
その他	18,086	6,061
減価償却累計額	△3,787	△5,028
その他（純額）	14,299	1,032
有形固定資産合計	259,335	262,973
無形固定資産	22,249	31,003
投資その他の資産		
差入保証金	—	140,906
その他	275,946	144,810
貸倒引当金	△17,890	△18,185
投資その他の資産合計	258,055	267,532
固定資産合計	539,640	561,508
資産合計	1,533,641	1,504,301

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	86,965	82,626
短期借入金	249,600	231,700
未払法人税等	29,080	54,398
その他	390,911	339,642
流動負債合計	756,557	708,367
固定負債		
社債	40,000	65,000
長期借入金	202,285	202,000
退職給付引当金	12,627	11,634
その他	25,730	29,813
固定負債合計	280,643	308,447
負債合計	1,037,201	1,016,815
純資産の部		
株主資本		
資本金	213,240	211,880
資本剰余金	133,240	131,880
利益剰余金	252,832	212,000
自己株式	△142,851	△104,687
株主資本合計	456,461	451,072
評価・換算差額等		
為替換算調整勘定	△10,153	△6,206
評価・換算差額等合計	△10,153	△6,206
少数株主持分	50,132	42,619
純資産合計	496,440	487,486
負債純資産合計	1,533,641	1,504,301

(2) 四半期連結損益計算書
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年12月31日)
売上高	1,953,624	2,047,127
売上原価	1,500,715	1,602,983
売上総利益	452,909	444,144
販売費及び一般管理費	395,207	366,811
営業利益	57,701	77,332
営業外収益		
受取利息	829	249
受取地代家賃	5,478	5,413
為替差益	2,089	—
その他	3,197	2,783
営業外収益合計	11,595	8,446
営業外費用		
支払利息	3,267	5,583
不動産賃貸費用	1,993	2,336
為替差損	—	1,504
その他	1,151	1,172
営業外費用合計	6,412	10,596
経常利益	62,883	75,182
特別利益		
固定資産売却益	—	1,507
移転補償金	—	40,271
償却債権取立益	295	—
特別利益合計	295	41,778
特別損失		
固定資産除却損	—	6,451
前期損益修正損	15,558	—
リース解約損	5,114	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	2,347
その他	1,201	2,575
特別損失合計	21,874	11,374
税金等調整前四半期純利益	41,304	105,586
法人税、住民税及び事業税	17,676	26,689
法人税等調整額	4,449	△2,135
法人税等合計	22,125	24,554
少数株主損益調整前四半期純利益	—	81,032
少数株主利益	4,195	11,458
四半期純利益	14,982	69,573

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	41,304	105,586
減価償却費	28,217	24,402
差入保証金償却額	—	1,422
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	2,347
長期前払費用償却額	3,456	5,801
貸倒引当金の増減額(△は減少)	5,071	171
賞与引当金の増減額(△は減少)	2,419	—
退職給付引当金の増減額(△は減少)	202	993
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△3,500	—
受取利息	△829	△249
受取賃貸料	△5,478	△5,413
助成金収入	△1,800	△1,680
支払利息	3,267	5,583
不動産賃貸費用	1,993	2,336
固定資産除売却損益(△は益)	—	4,944
売上債権の増減額(△は増加)	△97,018	△60,434
たな卸資産の増減額(△は増加)	△20,693	△6,768
その他の資産の増減額(△は増加)	4,202	3,452
投資その他の資産の増減額(△は増加)	△7,234	2,832
仕入債務の増減額(△は減少)	48,003	5,420
その他の負債の増減額(△は減少)	33,655	32,890
その他	2,012	597
小計	37,253	124,238
利息の受取額	824	249
賃貸料の受取額	4,244	3,837
助成金の受取額	1,800	1,680
利息の支払額	△3,129	△5,255
法人税等の支払額	△3,541	△50,666
営業活動によるキャッシュ・フロー	37,451	74,082
投資活動によるキャッシュ・フロー		
貸付けによる支出	△5,720	△1,620
貸付金の回収による収入	3,012	2,494
有形及び無形固定資産の取得による支出	△14,327	△15,884
有形及び無形固定資産の売却による収入	—	1,952
差入保証金の差入による支出	△7,150	△8,957
差入保証金の回収による収入	3,393	22,773
保険積立金の積立による支出	—	△17,459
投資その他の資産の増減額(△は増加)	—	△10
投資活動によるキャッシュ・フロー	△20,791	△16,710

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	662,241	250,000
短期借入金の返済による支出	△700,641	△232,100
長期借入れによる収入	100,000	165,000
長期借入金の返済による支出	△37,285	△150,095
社債の償還による支出	△55,000	△25,000
株式の発行による収入	4,020	2,720
自己株式の取得による支出	△17,245	△38,164
配当金の支払額	△8,487	△28,740
その他	△5,177	△3,816
財務活動によるキャッシュ・フロー	△57,575	△60,196
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,394	△5,974
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△42,309	△8,799
現金及び現金同等物の期首残高	228,784	458,947
現金及び現金同等物の四半期末残高	186,474	450,148

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年7月1日 至 平成21年12月31日)

	生花祭壇事業 (千円)	生花卸売事業 (千円)	その他 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	1,491,703	376,255	85,664	1,953,624	—	1,953,624
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	5,493	446,291	8,832	460,617	△460,617	—
計	1,497,197	822,547	94,497	2,414,241	△460,617	1,953,624
営業利益又は営業損失(△)	227,340	71,039	△4,478	293,901	△236,200	57,701

(注) 1. 事業区分の方法

事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各区分に属する主要な製品

(1) 生花祭壇事業……生花祭壇、供花

(2) 生花卸売事業……菊、胡蝶蘭などの生花

(3) その他 ……ブライダル、ギフトなどの祝事に関する生花、園芸装飾等の緑化事業商品

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年7月1日 至 平成21年12月31日)

	日本 (千円)	アジア (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	1,882,115	71,508	1,953,624	—	1,953,624
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	5,501	48,912	54,413	△54,413	—
計	1,887,617	120,421	2,008,038	△54,413	1,953,624
営業利益	264,795	27,835	292,630	△234,929	57,701

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 日本以外の区分に属する主な国又は地域

アジア……台湾

【海外売上高】

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年7月1日 至 平成21年12月31日)

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分決定を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、冠婚葬祭の生花に係わる事業活動を展開しております。その中で、「生花祭壇事業」及び「生花卸売事業」の2つを報告セグメントとしております。

各事業の概要は下記のとおりであります。

生花祭壇事業：生花祭壇、供花等、葬儀における生花を使用した商品を作成して販売する事業

生花卸売事業：自社の祭壇事業で使用する生花の仕入及び葬儀関連会社の生花部や生花小売店に対して、生花を販売する事業

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間(自平成22年7月1日至平成22年12月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	生花祭壇事業	生花卸売事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,528,410	402,793	1,931,203	115,923	2,047,127	—	2,047,127
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	460,297	460,297	5,795	466,092	△466,092	—
計	1,528,410	863,091	2,391,501	121,719	2,513,220	△466,092	2,047,127
セグメント利益	196,471	105,020	301,491	2,957	304,449	△227,116	77,332

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ブライダル事業等であります。

2. セグメント利益の調整額△227,116千円には、セグメント間取引消去4,579千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△231,696千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。